

# ロータリー奉仕の発展

## クリフ・ドクターマン 元RI会長

たった今皆さまがご覧になられたのは、来る2010-11年度に向けた会長の強調事項のビデオです。皆さまが実施し、推進されているプログラムに対し、このような明確なビジョンが地区ガバナーに与えられたことは、これまでめったにありませんでした。これらの強調事項は、特に新しいプログラムというわけではありませんが、実りある次年度に向けてロータリー世界の活動の焦点を定めるものです。

ロータリーのプログラムがどのように生まれ、ロータリーの歴史を通じてどのように発展してきたかを真に理解するような経験をしたことのあるロータリアンは、ごくわずかしかないでしょう。そこで、本日私からそのことについてお話しさせていただきます。

ロータリーのプログラムは、RI理事会や財団管理委員会が始めたものではありません。ほぼすべてのプログラムは、ニーズを目の当たりにしたロータリアンが、「自分たちのクラブで何かできるのではないか」と考え、創造力あふれる素朴なアイデアをもたらしたことから生み出されたものです。

皆さんの中で、オハイオ州のイリリア・ロータリー・クラブの会員、エドガー“ダディ”アレンというロータリアンの名前を聞いたことのある方は、おそらくほとんどいないでしょう。1919年当時、ダディ・アレンは、手足の不自由といった障害のある子供たちに対して、全ロータリー・クラブが支援の手を差し伸べるべきであると固く信じていました。路面電車の事故で息子を亡くした後、アレンは募金活動を実施したり、国内を旅してロータリー・クラブで講演を行い、障害のある子供たちへの支援をロータリーの主要な活動とするよう訴えました。その後間もなく、すべてのロータリー・クラブで、けがや先天性疾患、失明やその他の障害を患う子供たちの問題に取り組む「障害児委員会」が設立されました。また、州立や国立の肢体不自由児協会が次々と誕生しました。ロータリーの活動は、今日、障害者のための「イースター・シールズ」として知られる団体の結成につながりました。

アレンの熱意が、ロータリーの歴史の重要な節目と関係するのはなぜでしょうか。それは、障害児への支援を全ロータリー・クラブの主要な活動にするという呼びかけが、ロータリー世界を通じて熱い論争を引き起こしたためです。しかし最終的に、1922年のロータリー国際大会で行われた投票で、障害児への支援をロータリーの唯一の活動とするという提案は否決されました。それ以来、すべてのロータリー・クラブは、完全に自立して、それぞれのクラブと地域社会に最も見合ったプログラムや奉仕活動を選ぶようになったのです。

ロータリー・クラブは再び以前のようにプロジェクトを自分たちで選択し、クリスマスのプレゼントを届けたら、貧しい家族のために靴や衣類、食糧品を集めたり、恵まれない子供たちに玩具や本を提供したりしました。中には、公園にベンチを建てたり、遊び場を作ったりしたクラブもあります。このように、始めの50年間のロータリーの奉仕活動は、それぞれの地域社会でプロジェクトを選んだ個々のロータリー・クラブによって主に行われていました。

しかし、1960年代に入り、クラブが世界全体を一つの地域社会としてとらえるようになったことから、大きな変化が起きました。数々の国際奉仕活動が誕生したのです。1963年、当時のカール・ミラー会長は、「組み合わせ地区」と「クラブプログラム」という制度を導入しました。その後の1965年、ロータリー財団は、最初のマッチング・グラントを開始しました。翌年の1966年、世界社会奉仕という概念が正式なものとなりました。ロータリー・クラブは、国境と海を越えた活動を開始するようになり、国際奉仕活動は、地元の地域社会プロジェクトを支援するようになりました。1967年、ロータリーは、「海外ロータリー・ボランティア」制度とともにその国際的な活動を拡大し、発展途上国への技術・専門的な援助の提供を開始しました。災害救援もまた、世界的な奉仕活動へと発展していったロータリー・クラブの活動の一つです。

しかし、ロータリーのリーダーの中には、もっと大きなことをしようと夢を抱いていた人たちがいました。1978年、当時のクレム・レヌフRI会長が、クラブまたは地区では到底実施できないような大規模な国際的プロジェクトをロータリーが実現するために、「保健、飢餓追放、人間性尊重 (3-H)」プログラムを提唱しました。私は当時、最初の3-H委員会の共同委員長を務めていましたが、私たちはこの3-Hプログラムが、世界に真の違いをもたらすような大規模なプロジェクトをクラブが実施していくための新たな試みになると考えていました。しかし、このプログラムにはあまり多くの支持が寄せられず、実際、多くのシニアリーダーの間では異議や批判の声も上がりました。

幸いにも、1980年に、ロータリーの75周年を記念して特別資金が集められ、これらの資金によって最初の3-Hプログラムが発足しました。私たちは、3-Hプログラムの効果を実証できる成功談を直ちに報告したいと考えていました。そこで初めての3-Hプロジェクトとして、フィリピンの600万人の子供たちにポリオの予防接種を行ったのです。この活動とほかの予防接種プロジェクトの成功は、世界からポリオを撲滅することを目指した「ポリオ・プラス」プログラムの先駆けとなりました。ほかに、コロンビアでの地域衛生プロジェクト、タイでの全国的な識字プログラム、複数国で行われた保健と食糧生産プロジェクトなど、数多くの3-Hプロジェクトが実施されました。ロータリーは、多くのシニアリーダーの反対にもかかわらず、国や地域レベルで大規模なプロジェクトを開始する方法を見出したのです。

3-Hプログラムを土台として1981年、当時のスタン・マッキヤフリーRI会長が「ニューホライズン委員会」を任命し、未来への新しい道が切り開かれました。同委員会が推奨し、RI理事会が採択した30の事項のうちの 하나가、世界中のすべての子供たちにポリオワクチンを提供するというアイデアでした。1984-85年度に任期を務めたカルロス・カンセコ会長が、「今こそ開始しよう」と呼びかけ、大規模な募金キャンペーンが本格的に始まりました。

ポリオ・プラスが世界中で成果を生み出すにつれ、ロータリーにおいても新しい姿勢が見られるようになりました。新しいアイデアを持ったロータリアンが、世界に違いをもたらすことができるということをいかに信じてきたかを示す例がたくさんあります。

ニューヨークのロータリアン、トニー・ジーノ氏が、ハイエナに襲われ大きな傷を負ったウガンダの子供の話を読んだときのことです。マーガレット・ローズ・イルコルという名のこの少女の悲劇に胸を痛めたジーノ氏は、少女の整形手術を援助する活動を実施しました。親切心から生まれたこの一つの行動が、「Gift of Life (命の贈り物)」と呼ばれるロータリーのプログラムのきっかけとなったのです。1974年、当時5歳のグレース・アグワルちゃんがウガンダからニューヨークにやってきて、4時間にわたる心臓切開手術を受けました。ロータリアンの素朴な思いやりが、世界中の60ロータリー地区の支援を呼び、1万人以上の子供たちの命を救うダイナミックなプログラムに発展したのです。

1968年には、P.K.セシ博士と地元の彫刻家の一人が、インド、ジャイプールの僻地で、費用のかからない義足を設計すれば、足を切断した人々や、生まれつき足の不自由な人々の多くに歩くチャンスを与えることができると思いつきました。こうして、プラスチックパイプとくずゴムを使った軽量のジャイプールフットが誕生したのです。今日までに、ロータリアンは、世界中の10万人以上の男女と子供たちにジャイプールフットを提供してきました。これらの人々は、歩けるようになっただけでなく、自立心と自尊心を持つことができるようになりました。

テキサス州では、メキシコ中部のタラウマラ族が直面していた深刻な飢饉のことを知ったJ.B.ロバーツ氏率いるロータリアンのグループが、同州で実施されていた「ブリードラブ乾燥食品」プロジェクトを通じて、メキシコに何百キログラムもの乾燥食品を送りました。この活動は、後にロータリー・クラブが提唱する「ハンガー・プラス」と呼ばれる救援組織に発展しました。これは、飢餓を軽減し、新しい食糧供給手段の開発を目指す組織です。1998年以来、飢餓と栄養失調を緩和し、災害救援を行うために、このプログラムを通じて、ロータリー・クラブから世界各地に乾燥した果物や野菜が送られてきました。

英国では、ロータリアンのトム・ヘンダーソン氏が、救命用品や用具を詰めた箱を用意し、洪水、地震、竜巻、津波などの災害に見舞われた地域に直ちに送れるようにするというアイデアを思いつきました。こうしてシェルターボックス・プログラムが生まれ、現在、このプログラムによって、10人が生活できるテント、調理器具、寝袋、水用の容器、その他の道具や必需品の入ったシェルターボックスが各地に送られています。クラブのミレニアムプロジェクトとして一人のロータリアンが始めたこのプログラムは、世界各地に広まり、多くのロータリアンによって実施されるようになりました。ロータリー・クラブは、災害に見舞われた30カ国以上の50万人を超える人々に迅速に支援を提供できるようになりましたが、これもロータリアンの思いやりの心があってのことです。

これらの例から、ロータリーが実施するほとんどのプログラムが、ニーズを感じ、何とかしようとして立ち上がった一握りのロータリアンによって始められたということをご理解いただけたのではないのでしょうか。

年月が経過し、ポリオ・プラス・プログラムで得た経験を基に、ほかの人道組織や非政府組織との協力によって、クラブや地区の活動が大幅に拡大できるのではないかという声が多くクラブと地区から上がりました。2000年、当時のフランク・デブリンRI会長が、人道的な目標を同じくする他団体との協力関係の構築を目指して実行グループを設置すると、ロータリーの活動はさらに大きく飛躍しました。

例えば、推定5千万人が、視力を失い、白内障の手術や眼疾患のための基本的な治療が受けられないために不自由な生活を送っています。そこでロータリアンは、世界保健機関、グローバルビジョン、国際トラコーマ計画などのような世界の主要機関からの協力と、数々の国際的な製薬会社や財団からの支援を得て「予防可能な失明救済活動」を発足しました。現在、クラブと地区は、3-H補助金とマッチング・グラントを通じて、河川盲目症、白内障、トラコーマ、その他の視力障害に苦しんだり、視力矯正レンズを持たずに不自由に暮らしている何百万もの人々を支援しています。また、ロータリアンだけでも、世界中で50万人以上の人々に白内障の手術のための資金を提供してきました。これは、ロータリーの世界社会奉仕の新たな方向性を示す素晴らしい一例です。

ロータリーの奉仕活動のもう一つの例は、2001年以来、車椅子財団と協力して続けられている活動です。これまで2千以上のロータリー・クラブと地区が、100カ国において20万台を超える車椅子を寄贈してきました。これらのクラブによって、ポリオ、先天性疾患、事故やその他の疾患の体が不自由になった人々が自由に移動できるようになりました。ロータリアンが支援するこの車椅子の寄贈活動は、ロータリー財団のマッチング・グラントからの支援、ならびにカナダ、英国、オーストラリア、米国フロリダ州とカリフォルニアで活動する車椅子財団からの協力によって、さらに拡大しています。ロータリーと他団体との協力活動を通じて、現在20万人以上の人々が、より良い生活を送ることができるようになりましたが、これは、ニーズを理解し、それに取り組んだロータリアンがいたからこそ実現したのです。

近年では、ロータリアン行動グループの誕生とともに、国際奉仕の新たな分野が開拓されました。行動グループの活動は、かつて「スポーツとレクリエーションのロータリー親睦活動」と呼ばれていた伝統ある親睦活動から発展したものです。新しく誕生したロータリアン行動グループは、人口と開発、マラリア撲滅、献血、多発性硬化症、元ポリオ患者への支援、災害救援などのさまざまな人道的分野で、世界規模の活動や意識向上に取り組んでいます。

ロータリアン行動グループの一つに、水と衛生のロータリアン行動グループがあります。これは、安全な水を利用できない12億の人々と、基本的な衛生設備を利用できない24億の人々のために、水に関連する長期的な活動を支援しているグループです。現在、推定7千以上のロータリー・クラブが、水プロジェクトに既に取り組んでいます。ロータリアン行動グループは、ウォーターエイド、ウォーター・フォー・ピープル、グローバル・ウォーター・チャレンジ、リビング・ウォーター・フォー・ザ・ワールド、国境なきエンジニア、カナダ国際開発局、その他多数の機関、教会、財団と協力して、アフリカの40カ国、アジアの25カ国、ラテンアメリカの17カ国に住む何百万もの人々のためにきれいな水と衛生設備への取り組みを推進しています。

また、世界中で猛威を振るうHIV／エイズの悲惨な状況に取り組むロータリアン行動グループがあります。ロータリアンは、人々を死に至らしめるこの病に、教育面と医療面でのさまざまな支援と介護活動によって対応してきました。エイズと闘うロータリアン行動グループは、アフリカの4万6千人の孤児と弱い立場にある子供たちに手を差し伸べています。また現在、同グループは、米国国際開発庁、コカ・コーラ・アフリカ財団、マイクロソフト、ナイキ、ゲイツ財団など、数々の財団と協力し、活動をケニアをはじめ各国での試験プロジェクトに拡大しています。ロータリアンは、アフリカの子供たちと青少年に教育と医療、希望を与えているのです。

私は、地区ガバナーの皆さま一人ひとりに、これらの特別なグループの可能性を知っていただきたいのです。ロータリアン行動グループの活動は、ロータリー財団の6つの重点分野に取り組む最も効果的な手段となり得るでしょう。行動グループが、未来のロータリーの奉仕において新境地を開いていくことになるはずです。ロータリアン行動グループは、ほかの非政府組織との協力関係の中で、ロータリアンの熱意と知識を生かし、一つのクラブや地区のプロジェクトでは実現できないような持続的な人道的奉仕活動を達成しています。

インターネットという情報通信技術の目覚ましい発展により、ロータリアンは、重要な問題について瞬時に知り、瞬間にロータリアンの支援を集めることができるようになりました。ロータリアンの創造力とアイデアは尽きることなくどこまでも膨んでいくに違いありません。

近年私たちは、共通の人道的目標を持つ団体や財団と協力し、リソースを倍増することによって、これまで太刀打ちできなかった大きな課題に立ち向かえるということを、世界に、そして私たち自身に証明してきました。

このようにロータリー・プログラムが発展する中で、私たちは、ロータリーを形づくってきたほかの伝統的プログラムについても忘れてはいけません。インターアクト、ローターアクト、ロータリー地域社会共同隊、ロータリー青少年指導者養成プログラム (RYLA)、ロータリー・ボランティア、友情交換、青少年交換などのプログラムはすべて、一つのクラブや一人のロータリアンの夢から生まれたものです。

青少年交換プログラムは、今年度の特別強調事項に該当する分野ですが、これもフランス、ニースの数名のロータリアンが始めたプログラムです。今日、7千人以上の青少年が、毎年、ロータリーの青少年交換に参加し、豊かな経験を積んでいます。

ロータリー財団の6つの重点分野において、これからも私たちは、医療機器の提供、血液バンクの設立、学校の建設、きれいな水の供給、衛生設備の改善、疾病予防、マイクロクレジットの提供、地雷撤去、識字率向上、食糧生産のための種まき、人々の自尊心の回復、難民への支援に取り組み、世界に希望をもたらしていくことができるでしょう。ロータリーのプロジェクトは無数にあります。それは、世界にニーズが限りなく存在するからです。

本日私が皆さまにお伝えしたいのは、例会を開き食事を共にすること以外に、ロータリーにはもっと多くの意義があるということです。百年以上にわたり、ロータリーのプログラムは発展を続けてきました。しかし、素晴らしいプログラムのアイデアは、今日ここにおられる皆さまの思考の中にまだ眠っているかもしれません。優れた活動とは、クラブと地区に情報を伝え、行動を起こすよう意欲を喚起し、刺激したときにこそ生まれるものではないでしょうか。

悲しいことに、世界の人々と時間、活力、リソースを分かち合う喜びや充足感を味わったことのないロータリアンが多く存在します。ガバナーとして、皆さまはロータリーのパレードの先頭に立つ必要があります。クラブがこのパレードをただ歩道から眺めるに任せておくのではなく、指導力を発揮し、クラブに積極的にパレードの行進に加わってもらおうのが皆さまの仕事です。

ロータリーの最盛期はまだまだこれからです。会長エレクトは、2010-11年度の強調事項と方向性を与えてくださいました。皆さま、そして地区が行動を起こすとき、素晴らしいことが成し遂げられるでしょう。

過去の功績は、ロータリーの未来に続く序曲にすぎません。2010-11年度の会長強調事項を実践すれば、ロータリーはより良い地域社会と世界を築くことができるでしょう。これを実現できるかどうかは、ロータリー世界の指導者として選ばれた皆さまの手にかかっているのです。早速、仕事に取り掛かろうではありませんか。